

**[成果情報名]イチゴ育苗期における雨よけ施設および流水育苗ポット台を組み合わせた炭疽病の耕種的防除法**

**[要約]** 耕種的防除法として雨よけ施設および流水育苗ポット台利用を薬剤散布に組み合わせることにより、炭疽病に対し極めて高い防除効果が認められる。一方、露地育苗条件下では、降雨がある場合、流水育苗ポット台利用による炭疽病防除効果は認められない。

**[キーワード]** イチゴ、「さちのか」、流水育苗ポット台、炭疽病

**[担当]** 農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

**[連絡先]** (代表) 0957-26-3330

**[区分]** 野菜

**[分類]** 普及

-----  
**[背景・ねらい]**

イチゴ品種「さちのか」は、従来品種と比べ炭疽病に極めて弱く、本病に対しては薬剤防除を中心に対策が実施されているにもかかわらず、本病の多発による苗不足や本圃定植後の萎凋枯死など重大な被害を招くことが多い。そのため、健苗育成には、総合的な防除対策が重要である。流水育苗ポット台（写真1）は、それぞれのポットに通じる水路から水を供給するため、灌水の際に水の跳ね返りや葉の濡れがない。そこで、イチゴ育苗期における雨よけ施設および流水育苗ポット台利用を組み合わせた耕種的防除法のイチゴ炭疽病に対する防除効果について検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 耕種的防除法として雨よけ施設および流水育苗ポット台利用を薬剤散布に組み合わせることにより、炭疽病に対し極めて高い防除効果が認められる（図1：1区）。
2. 雨よけ育苗条件下では、流水育苗ポット台利用＋薬剤散布なしは、頭上灌水＋薬剤散布ありの組み合わせと同等の防除効果を示す（図1：2、3区）。
3. 露地育苗条件下では、降雨がある場合、流水育苗ポット台利用による炭疽病防除効果は認められない（図1：5、6区）。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 雨よけ育苗では、夏季の高温や寒冷紗の設置による育苗株の徒長やうどんこ病の発生助長等に注意する必要がある。
2. 流水育苗ポット台は1トレイ 600円で市販化されている。10a分の苗生産にはポット台600枚（7200株分、36万円）と専用チューブ300m（2万円）が必要である。
3. 本成果情報で使用されている流水育苗ポット台の概略については、ながさき普及技術情報第29号（2010年）に記載されている。

[具体的データ]

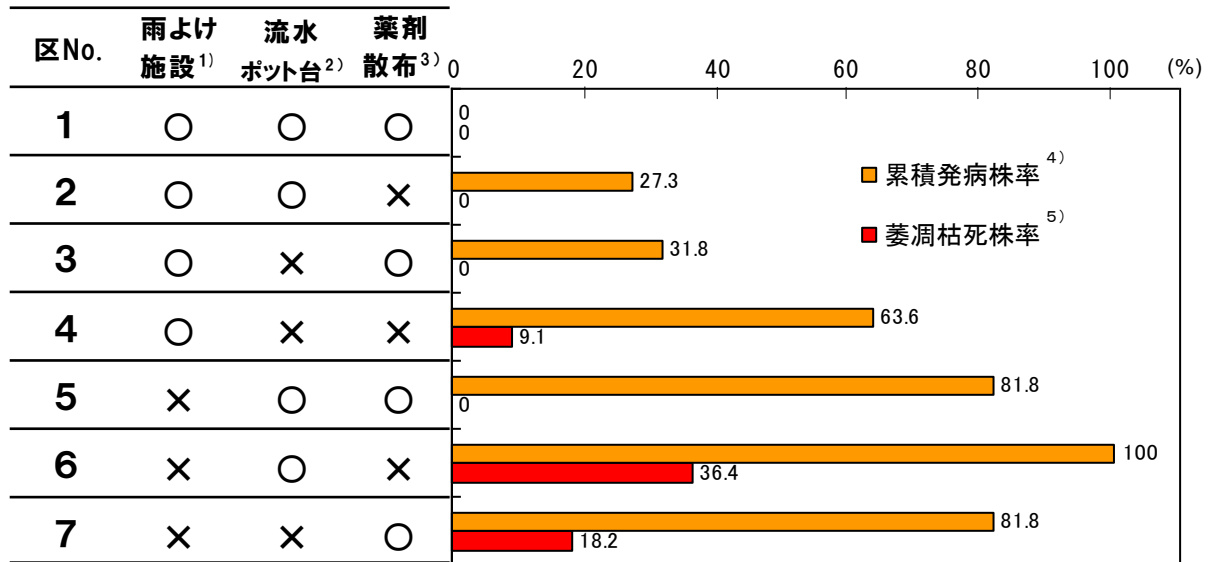


図1 試験終了時における累積発病株率および萎凋枯死株率

- 1) 雨よけ施設 ○：雨よけ施設内での育苗、×：露地育苗
- 2) 流水ポット台 ○：流水育苗ポット台を用いた灌水、×：灌水チューブを用いた頭上灌水
- 3) 薬剤散布 ○：表1に従って殺菌剤散布、×：殺菌剤無散布
- 4) 累積発病株率：各区の試験期間中（8/3～9/28）に一度でも発病を認めた株数より算出
- 5) 萎凋枯死株率：試験期間中に萎凋枯死した株数より算出

※耕種概要

- ・品種：「さちのか」 ・育苗方式：高設ベンチ
- ・区制：11株/区、2反復 ・供試苗設置：8月3日
- ・灌水：流水育苗ポット台は10分/日、頭上灌水は50分/日
- ・摘葉：葉数が3枚となるよう適宜行った
- ・菌接種源：8月4日～9月1日発病苗を各試験区内に設置（図2）
- ・試験期間中に炭疽病の発生を確認した供試苗については、試験区から取り除かなかった

表1 試験期間中の薬剤散布状況

散布月日	散布薬剤名
8月3日	セイビアーフロアブル20
8月13日	ベルコート水和剤
8月25日	ゲッター水和剤
9月1日	アントラコール顆粒水和剤
9月13日	キノンドーフロアブル



写真1 流水育苗ポット台

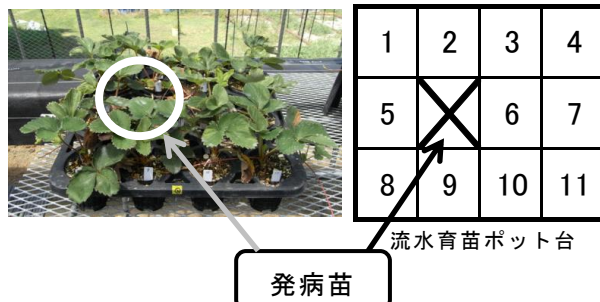


図2 発病苗の設置状況

[その他]

研究課題名：農林業生産現場への緊急技術支援プロジェクト研究  
 予算区分：県単  
 研究期間：2011年度  
 研究担当者：吉田満明、難波信行